

3. 中心市街地の活性化の目標

[1] 甲府市中心市街地活性化の目標設定

テーマ（将来像）

—かがやく個性、ひびく感性、ふれあう心、そして心地のよい景観のまち甲府—

「第五次甲府市総合計画」の将来像である「人がつどい 心がかよう 笑顔あふれるまち・甲府」との整合性や、これまでの中心市街地活性化への取り組みから課題として挙げられた、魅力があり行きたくなる場所、子供から若者、子育て世代、高齢者までが住みやすい場所、人とのふれあいがある場所であり、個性的な魅力を高め、センスのよい、安心して快適な心地よい環境づくり都市としての機能強化に対応する将来像とする。

また、「ふれあう心」という項目には、すべての人が「新たな時代にあった中心市街地を作り上げていく」という熱意を持ち、同じ方向を目指し、それぞれが参加者であるという意識を持つことが最重要であるとの考えを含んでいる。

基本方針①：見て楽しみ、買って楽しめる中心市街地

商業の振興は中心市街地活性化のための重要課題であることは、前計画と同様である。

その課題解決のために拠点整備、駐車場等のハード整備を行うとともに、ソフト面での商店街の魅力向上に取り組む。こうして街路の環境を整備して心地よい街並みを形成することで、甲府の中心市街地を個性的にメイクアップし、にぎわいの創出と利便性の向上を図る。そして、住む人、訪れる人の両方にとって楽しいまちをつくる。

活性化の目標A：快適な歩行空間と人が集う魅力的な商店街の整備によるまちの活力の発揮

快適な歩行空間、すなわち歩いて楽しく、歩きたくなるまちにするためには、市街地の個性的な魅力を向上していく必要がある。そのためには、甲府駅南口周辺整備事業等により、バリアフリーや回遊空間など歩行者に配慮した整備を行うとともに、商店街等では魅力的な空間の創造に資する、空き店舗、空き地の活用等をよりいっそう進める。

また、活性化の取り組みを持続するため、民間の活力を発揮できる仕組みを作り、活動意欲を構想に終わらせないための各種支援を拡充する。

<成果指標>

空き店舗数

- ・本計画においては、商店街を魅力ある空間にすることに重点を置き、店舗の連続性や快適な景観の形成などによる商業の活性化を目指すことから、歩行者通行量や居住人口と関連して、中心市街地の活性化を数量的に測る成果指標を設定するため、前計画で設定した小売販売額から、空き店舗数に変更する。
- ・空き店舗数は、市担当課で毎年調査を行っていることから、定期的に状況を把握でき、“閉じたシャッター”が再び開き、中心市街地が魅力ある買い物の場となっている様子を示すデータであることから、快適な歩行空間が実現されるとともに人が集う魅力的な商店街の整備によるまちの活力の発揮を反映する指標である。

<課題解決・活性化（目標達成）に向けた主な事業>

主な事業

- ① 空き店舗活用事業
- ② 小グループ自主的取組支援事業
- ③ まちなか不動産バンク事業

<エリア内への波及効果>

- ・従来の支援制度を拡充した①の取組により、中心商店街への出店の促進を図る。
- ・②の取組により、小規模グループでのファサード整備等の支援を行い、出店機会を創出する。
- ・③の取組により、遊休物件の積極的な情報発信を図るとともに、所有者、利用希望者、地域等の意向を総合的に勘案した不動産利活用を行う。

関連する事業

- ① ストリート再生チーム事業
- ② 提案型による中心市街地活性化事業
- ③ 甲府中央一丁目地区優良建築物等整備事業

<エリア内への波及効果>

- ・①の取組により、民間が主体となって活動する仕組みを構築し、まちの魅力向上づくりを行う。
- ・②の取組により、イベントの効率的な実施を図る。
- ・③の取組により、官民が一体となり周辺の魅力向上と賑わいの創出を図る。

基本方針②：歴史、文化、芸術が薫る中心市街地

舞鶴城公園や甲府駅北口の拠点施設、また、市内に点在する地域資源の活用、さらには回遊道路等の整備により、武田信玄の時代や江戸時代の城下町であり、明治以降の商業や行政の中心であった本市の歴史と文化、芸術を感じられるまちをつくる。

活性化の目標B：にぎわいの場を結ぶルートの整備とまちの魅力の創出

史跡や文化・芸術施設について、人々が回遊を楽しめるように結び、滞留できるように整備する必要がある。

そのために、これまで中心市街地が培ってきたこれらに関連する既存ストックを活用して交

流人口の増加を図り、来街者の滞在時間を延ばすための取り組みを行う。

併せて、商業の振興ともリンクしたまちの魅力向上のための取り組みを行う。

<成果指標>

歩行者通行量

- ・来訪動機となる各種施設の整備活用が進み、古くからの蓄積としての歴史や文化芸術によりふれやすい中心市街地となることで、にぎわいが回復する様子を検証する指標として、歩行者通行量を採用する。
- ・歩行者通行量は、市担当課で定点観測を行っていることから、定期的に来街者の動向を把握でき、客観的で市民にもわかりやすく、にぎわいの場を結ぶルートの整備とまちの魅力の創出の進展を反映する指標である。

<課題解決・活性化（目標達成）に向けた主な事業>

主な事業

- ① まちなか回遊道路整備事業
- ② 甲府中央一丁目地区優良建築物等整備事業
- ③ 県庁耐震化等整備事業

<エリア内への波及効果>

- ・①の取組により、重点的に取り組む中心商店街エリアや甲府城跡南側エリアの新拠点に、新たな回遊ルートを整備し、各拠点間の動線を確保する。
- ・②の取組により、新たに発生する居住者や1階の商業等スペースへの来訪者の回遊を図る。
- ・③の取組により、新たな展示施設を設置し、集客を図る。
- ・このほか区画整理に誘発された専門学校の設置や、支援制度を利用した民間事業、ココリのリニューアル等により来街者の増を図る。

関連する事業

- ① 甲府駅南口周辺地域景観整備事業・甲府駅南口駅前広場
- ② 甲府駅南口周辺地域景観整備事業・平和通り
- ③ 空き店舗活用事業
- ④ 小グループ自主的取組支援事業
- ⑤ まちなか不動産バンク事業
- ⑥ 甲府駅周辺土地区画整理事業

<エリア内への波及効果>

- ・①～②の取組により、歩いて楽しめるまちづくりを主眼に、公共交通機能等の利便性を向上させるとともに、歩行者に配慮したまちの整備を行う。
- ・③～⑤の取組により、中心市街地への出店を促進し、来訪者増を図る。
- ・⑥の取組により、土地区画が整理され、新たな事業進出の場を創出する。

基本方針③：まちとつながる、人とつながる中心市街地

バリアフリーの道路改良、緑化推進、まちの杜の整備、公共交通の利便性向上等により、高齢者や障害者、交通弱者等のすべての人にやさしいまちをつくる。また、周辺を山に囲まれた豊富な自然環境と、都市機能を併せ持つ中心市街地の魅力ある暮らしを楽しむまちをつくる。

活性化の目標C：アクセスしやすく、多世代が安心して暮らせる都市・生活基盤の創造

当区域内には2線が乗り入れるJR甲府駅とバスターミナルがある他、3本の国道が通過しており、県内外への主要な交通結節点であることから、中心市街地への来やすさと中心街から外への行きやすさを保ちながら、住みたい場所となるための良好な居住環境を保持する必要がある。

そのためには車と歩行者のすみわけに配慮し、住民等が交流を大切にしながら安全に安心して暮らせる環境をつくるとともに、まちなか居住への支援や良質な居住施設の提供等の活動を支援することにより、居住人口増への取り組みを促進させる。

また、商業の振興や交流人口の増加ともリンクし、まちの魅力づくりを念頭に置いた取り組みを行う。

<成果指標>

居住人口

- ・豊かな自然環境に囲まれる中、域内外の行き来のしやすさと良質な居住環境が日々の暮らしを送る場として選ばれる様子を示す指標として、居住人口を採用する。
- ・居住人口は、住民基本台帳による把握が可能で、客観的で市民にも理解しやすく、**アクセスしやすく、多世代が安心して暮らせる都市・生活基盤の創造**の進展を反映する指標である。

<課題解決・活性化（目標達成）に向けた主な事業>

主な事業

- ① 中心市街地定住促進住宅取得・改修支援事業
- ② 甲府中央一丁目地区優良建築物等整備事業
- ③ まちなか不動産バンク事業

<エリア内への波及効果>

- ・従来の制度を拡充した①の取組により、中心市街地への居住を促す。
- ・②の取組により、良質な居宅の整備を促進し、居住人口の増加を図る。
- ・③の取組により、住居情報を積極的に発信するとともに、遊休不動産の利活用を図る。